

# 残響は鳴り止まず



残響は鳴り止まず  
胸に残る  
記憶に縋ることだけ  
上手くなってしまった

回聲響而不絶  
留於心中  
沉溺在記憶中這一點  
卻變愈發熟練了

---

光降る  
平穩に誘われて  
窓から見える  
いつもの後ろ姿を探した  
わかってる

陽光灑落  
誘向平穩日常  
從窗沿看去  
探尋一直在那兒的背影  
我明白的

---

会えなくなるわけでも無  
くて  
君が消えてしまうことも  
無い  
過去と違うことは一つ  
  
「答え」が知らせた見え  
ない壁

並不是再也見不到了  
  
也不是你要永遠消失了  
  
和過去相比唯一不同的一  
點  
是得知了「答案」這堵看  
不見的牆

---

残響は鳴り止まず  
胸に残る  
元の形が消えても  
  
哀しみは消えません

回聲響而不絶  
留於心中  
就算已經沒有了原本的形  
狀  
悲涼還是不會消失

綺麗だった音色も  
濁っていた  
あのドアを開けなければ  
知らずにいられたのに

曾經清澈的音色  
也變得渾濁  
沒打開那扇門的話  
明明還能繼續不知情的

ぎこちない  
新たな二人の距離  
何を話せば  
いいかも分からなくなる  
なんてね  
わかってる

生疏而尷尬  
兩人間新的距離  
該說什麼  
已經不知道如何說了  
  
我明白的

もう昔の二人では無い  
むしろ「二人」という表  
現も  
私の中で生み出した  
元々滑稽な絵空事

已經不再是從前的兩人了  
不如說「兩人」這種說法  
  
也只是我憑空想出的  
原本就很滑稽的白日夢

後悔は行動の  
証という  
けれど実らぬなら  
そう 意味が無い  
それが恋

如果說後悔是行動的  
証據的話  
反過來如果沒有結果的話  
是的 就沒有意義  
這就是戀

美しく散りたいよ  
格好悪いよ  
一人ですすり泣く日々  
残響に混じるだけ

好想完美地消失啊  
現在好尷尬啊  
一個人淒淒落淚的每天  
只是融入在回聲中

---

誰にも言えない感情  
言えぬどころか増してい  
くから  
もう一度だけ駄目でしょ  
うか？  
この気持ちは迷惑でしょ  
うか？  
聞けないよ

對誰也無法啓齒的感情  
因爲不能說所以更難過  
再最後重來一次不行麼？  
這種心情會讓你困擾麼？  
這沒法問啊

---

残響は鳴り止まず  
胸に残る  
元の形が消えても  
哀しみは消えません

回聲響而不絕  
留於心中  
就算已經沒有了原本的形  
狀  
悲涼還是不會消失

---

生き甲斐だった君が  
ここにいない  
このドアを開けなければ  
知らずにいられたのに

你原本是我活下去的動力  
現在卻不在了  
如果沒有打開這扇門的話  
明明還能繼續不知情的

---

一人ですすり泣く日々  
残響に混じるだけ

一個人悽悽落淚的每天  
只是融入在回聲中

---

照例左側註音，右側解釋字詞。

---

ざんきょう    な    や  
残響 は 鳴 り 止 まず

ざんきょう  
残響：中文似乎應該叫 混響，和回聲有點關係但是又不是同一回事。這裏翻譯成回聲似乎也沒什麼問題。

むね    のこ  
胸 に 残 る  
きおく    すが  
記憶 に 縋 る こと だけ

すが  
縋 る：作為依靠緊緊抓住某物，這裏就是以記憶為救命稻草的感覺。還有一層引申義是對佛神祈願。

うま  
上手 くな っ て し ま っ た

ひかり    ふ  
光 降 る  
へいおん    さそ  
平穩 に 誘 わ れ て

まど    み  
窓 から 見 える

うし    すがた    さが  
いつもの 後 ろ 姿 を 探 し た  
わかってる

あ 会 えなくなるわけでも 無<sup>な</sup>くて  
きみ き 君 が 消<sup>き</sup>えてしまうことも 無<sup>な</sup>い  
かこ ちが ひと 過<sup>かこ</sup>去 と 違<sup>ちが</sup>うことは一つ

こた し み かべ  
「答<sup>こた</sup>え」が知<sup>し</sup>らせた見<sup>み</sup>えない壁<sup>かべ</sup>

---

ざんぎょう な や  
残<sup>ざんぎょう</sup>響 は 鳴<sup>な</sup>り 止<sup>や</sup>まず  
むね のこ  
胸<sup>むね</sup>に 残<sup>のこ</sup>る  
もと かたち き  
元<sup>もと</sup>の 形<sup>かたち</sup>が 消<sup>き</sup>えても  
かな き  
哀<sup>かな</sup>しみは 消<sup>き</sup>えません

---

きれい きたい  
綺<sup>きれい</sup>麗<sup>きたい</sup> だっ<sup>た</sup> 音<sup>き</sup>色<sup>たい</sup> も

きたい  
音<sup>き</sup>色<sup>たい</sup>：一般音<sup>き</sup>色<sup>たい</sup>讀<sup>き</sup>作<sup>たい</sup>ねい  
ろ或者おんしょく，這裏  
寫音<sup>き</sup>色<sup>たい</sup>讀<sup>き</sup>作<sup>たい</sup>きたい，懷疑  
是表<sup>き</sup>達<sup>たい</sup>「氣<sup>き</sup>体<sup>たい</sup>」。

にご  
濁<sup>にご</sup> っ<sup>て</sup>いた  
あ<sup>あ</sup>のドアを 開<sup>あ</sup>けなければ  
し  
知<sup>し</sup>らずにいられたのに

---

ぎこちない

ぎこちない：荒<sup>あ</sup>涼<sup>りやう</sup>的<sup>てき</sup>様<sup>よう</sup>  
子<sup>こ</sup>，悲<sup>ひ</sup>涼<sup>りやう</sup>的<sup>てき</sup>様<sup>よう</sup>子<sup>こ</sup>，蕭<sup>せう</sup>條<sup>てい</sup>的<sup>てき</sup>  
様<sup>よう</sup>子<sup>こ</sup>。

あら に にん きより  
新 たな 二人 の 距離

なに はな  
何 を 話 せば

いいかも 分 かわ からない なる  
なんてね  
わかってる

---

むかし ふたり な  
もう 昔 の 二人 では 無 い

に にん ひょうげん  
むしろ「二人」という 表現 も

わたし なか う だ  
私 の 中 で 生 み 出 した

もともと こっけい えそらごと  
元々 滑稽 な 絵空事

---

こうかい こうどう  
後悔 は 行 動 の

あかし  
証 という

みの  
けれど 実 らぬなら

いみ な  
そう 意 味 が 無 い

こい  
それが 恋

---

うつく ち  
美 しく 散 り たい よ

かっこ わる  
格 好 悪 い よ

直譯：好想美麗地凋謝啊

かっこ わる  
格 好 悪 い：不帥氣，很  
衰，很囧

ひとり　　な　　ひび  
一人ですすり泣く日々  
ざんきょう　　ま  
残響に混じるだけ

---

だれ　　い　　かんじょう  
誰にも言えない感情  
い　　ま  
言えぬどころか増していくから  
いちど　　だめ  
もう一度だけ駄目でしょうか？  
きも　　めいわく  
この気持ちは迷惑でしょうか？  
き  
聞けないよ

---

ざんきょう　　な　　や  
残響は鳴り止まず  
むね　　のこ  
胸に残る  
もと　　かたち　　き  
元の形が消えても  
かな　　き  
哀しみは消えません

---

い　　が　　きみ  
生き甲斐だった君が

い　　が　　  
生き甲斐：活下去的价  
値，活下去的目的

ここにいない

このドアを　あ　開けなければ  
し  
知らずにいられたのに

---



ひとり  
一人ですすり泣く日々

ざんぎょう  
残響に混じるだけ